

中部 だより



中経連事務局員が、担当するエリアでお聴きした、各県の最新トピックや地域特有の情報を紹介するコーナーです。

静岡県立農林環境専門職大学“アグリフォーレ”の開学

豊かな農業県静岡

静岡県は、温暖な気候と変化に富んだ地形に恵まれていることもあり、多彩で高品質な農林水産物を産出している。大消費地にも近接することから、農業産出額は、2,120億円(2018年)で全国16番目。中でも、県を代表する農産物の茶やわさびは全国1位(2018年)を誇っている。

農業を取り巻く環境の変化

近年、農業生産を支える担い手の減少・高齢化、TPP・EPAによる輸入農産物との価格競争の激化など、農業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。一方で、農業の新たな担い手として、農業ビジネス経営体※と呼ばれる組織的かつ大規模な経営体の

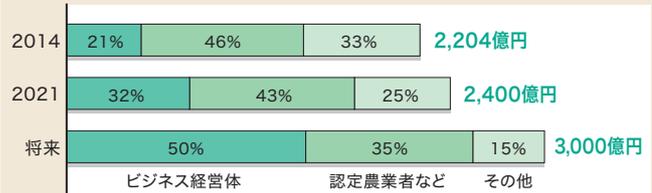
参加が増加し、存在感を高めている。

静岡県は、2018年3月に策定した「静岡県経済産業ビジョン」において、ビジネス経営体の農業産出額シェアを将来的には半分程度まで引き上げることを目標として

いる。これは、県内農業の発展のためには、力強い経営体を多教育成し、効率的かつ安定的な経営体が農業生産の大部分を担う農業構造を構築する必要があるとの考えによるものである。

※農業ビジネス経営体：個人経営から脱皮し、企業的な経営感覚で、地域の農業を牽引する経営体。ビジネス経営体の要件は、①経営が継承されていく永続的な経営体、②雇用による労働力を確保している、③企業として一定以上の販売規模を持ち成長を志向している、④マーケティング戦略にもとづくサービスや商品を提供していること。

静岡県の農業産出額シェア将来ビジョン



出所：静岡県経済産業ビジョン2018～2021(農業・農村編)より作成

静岡県立農林環境専門職大学の開学

組織的な経営体での規模拡大や経営の多角化に伴い、経営管理や加工・流通・販売などの専門的知識や能力、生産性を高める先端技術への対応能力を持つ人材の育成が課題となっている。

専門職大学とは

- 2017年の学校教育法の一部改正により、学校教育法第一条に規定される“大学”として設置される高等教育機関。2019年から開設が認められた新たな大学。
- 特定の職業のプロフェッショナルになるために必要な理論と実践を学べる。
- 専任教員の内、4割以上を専門分野において5年以上の実務経験がある実務家教員を配置することが義務付けされている。さらに、実務家教員の内、半数以上は研究能力を有していることが求められている。

専門職大学の特徵

- ①授業の1/3以上は実習・実技
- ②原則40人以下の少人数授業を研究者と実務家の教員から受けられる
- ③超長期の企業内実習で現場を体験できる(通算600時間以上)
- ④他分野も学べ、応用力が身につく
- ⑤学士の学位が授与されるため、大卒として就職・進学・留学できる

| | 専門職大学 | 大学 | 専門学校 |
|------|---|---|---------------------------------|
| 特徴 | 大学と専門学校の長所を組み合わせた「高度な実践力」と「豊かな創造力」の両方を身に付けさせる教育 | 幅広い教養や学術研究の正解にもとづく知識・理論とその応用の教育(学問的色彩の強い教育) | 特定職種の実務に直接必要となる知識や技能の教育(実践的な教育) |
| 修業年限 | 4年 | 4～6年 | 1年以上 |
| 教員 | 研究者教員・実務家教員を適切に配置 | 研究者教員が中心 | 実務家教員が中心 |
| 学位 | 学士(専門職) | 学士 | 専門士・高度専門士 |



静岡県では、農業を取り巻く変化に対応できる専門職業人材の育成を目的に、県立農林大学校を発展的に改組し、2020年4月磐田市に静岡県立農林環境専門職大学(愛称:アグリフォーレ)を開学。アグリフォーレは専門職大学としては初の公立、農林業分野においても初の専門職大学(2年制の専門職短期大学を併設)となる。

高度な実践力と豊かな創造力を育む学び

アグリフォーレには生産環境経営学部が設置されており、初年度は24名の定員に対し27名が入学した。その内12名は全国各地から集まった学生で、さらにインドネシアからの留学生も1名含まれる。農林大学校時代は8割以上が県内からの入学だったが、専門職大学になったことで学生の多様性は一気に拡大した。新入生は原則として1年間2人部屋での寮生活が義務づけられており、自身で生活を組み立てる習慣を身につけることで主体性を育むことを目指している。



1年次は、栽培や経営の基礎を学び、2~3年次は、「栽培」「林業」「畜産」の3分野に対応したコース別の専門的な学習に加えて、加工、

流通、マーケティング、食文化など、幅広い分野を体系的に学ぶ。また、3年次には経営体での2カ月間のインターンシップを通じて現場で技術を学ぶ。4年次は、経営体において企業的な経営感覚や戦略を身に付けるための実習を2カ月間行うとともに



に、卒論に相当する「プロジェクト研究」にも取り組む。さらに、4年間を通じた必修科目として農山村地域の景観や環境、伝統・文化など地域社会のあり方についても学び、地域資源を守り育みながら、リーダーとして求められる人間力も身につけることが期待されている。

今年は新型コロナウイルスの影響で5月までオンライン授業だったが、6月からは対面による学習が開始された。学生は屋内での講義はもちろん、フィールドでの実習にも精力的に取り組んでいる。

農業のさらなる成長産業化に向けて

貿易自由化が進む中、わが国農業の競争力強化にはスマート農業の加速化、6次産業化など、人手不足の解消と収益改善の両立による生産性向上は避けて通れない。そのためには、先端技術の導入、効率的な土地の利用などを担うことができる経営体の育成は必須となっている。

アグリフォーレで学んだ人材が経営体や農林業関連組織で活躍し、静岡県はもとよりわが国の農業を牽引する人材に成長することを願ってやまない。

文: 静岡・東三河担当 和田 耕一郎

静岡県立農林環境専門職大学 学長 鈴木 滋彦 氏



県立農林大学校時代から引き継ぐ校訓「耕土耕心」を背景に

本学の入学定員は4大24名、短大100名です。それに対し教員46名、職員23名を配置し、さらに実習用の広大な敷地・施設など小規模大学ながら有力大学に引けを取らない充実した学習環境を用意することができました。欧州ではフランスのグランゼコールやドイツの専門大学などが高等教育における職業教育の中心となっており、卒業生が社会を動かしています。わが国の専門職大学は始動したばかりですが、本学をはじめとする専門職大学の卒業生の活躍が、高等教育における職業教育の重要性を高め、産業界にその意義を知っていただく機会になると考えております。アグリフォーレの卒業生は4年後に社会に旅立ちます。ぜひご期待ください。